

公益財団法人千里リサイクルプラザ令和6年度(2024年度)第6回理事会議事録

1. 開催日時 令和7年3月21日(金)午前11時00分から午後0時30分まで
2. 開催場所 吹田市資源リサイクルセンター A棟5階 講義室2
3. 理事現在数 10名
4. 理事定足数 6名
5. 出席理事数 9名
小幡 範雄 平田美恵子 上野 浩文 東 真吾
黒田 勇 柴田 仁 藤澤 宏 道澤 宏行
和田大志郎
6. 欠席理事 大江 慶博
7. 出席監事 原田 憲 堀江 篤史
8. 会議の目的事項
決議事項 第8号議案 公益財団法人千里リサイクルプラザ事務局職員定年後再雇用規則の制定の件
第9号議案 公益財団法人千里リサイクルプラザ令和7年度(2025年度)事業計画及び収支予算等の承認の件

9. 会議の概要

(1) 議長の確認

冒頭、事務局の司会は上川善一郎次長が務めるとともに本日の議長は定款第37条の規定により小幡範雄理事長が務める旨を報告した。

(2) 定足数の確認

議長は、本日の出席理事数が9名で定足数を満たしており、理事会が有効に成立していることを報告した。

(3) 議案の審議状況及び議決結果

① 第8号議案「公益財団法人千里リサイクルプラザ事務局職員定年後再雇用規則の制定の件」

議長は第8号議案を議題とし、事務局にその説明を求めたので、上川善一郎次長が次のように説明した。

当財団は令和2年度第2回理事会において65歳定年を1歳引き上げて66歳としたが、優秀かつ即戦力となる人材を確保するには財団の給与水準は一般的には優位とはいえない。現行職員の長期雇用により安定した人材確保につながるよう、66歳の定年に達した事務局職員についてさらに70歳までを限度とする再雇用制度の規則の制定を行うものである。

議長が質問及び意見を求めたが質問及び意見は無かったので採決を諮ったところ満場一致をもって第8号議案は承認可決された。

② 第9号議案「公益財団法人千里リサイクルプラザ令和7年度(2025年度)事業計画及び収支予算等の承認の件」

議長は第9号議案を議題とし、事務局にその説明を求めたので、事業計画についてはそれぞれ議案書を基に、天野美晴参事及び林幸彦主査、玉江千佳子主査、大森亘主幹が順次説明した。収支予算等については議案書を基に田崎貴子主幹が説明し、併せて資金調達はなく、設備投資の予定については自己資金にてコンピューターの購入を予定している旨説明した。



説明が終わり、議長が質問及び意見を求めたところ次のような質疑応答があった。

(道澤理事)

環境出前講座であるが、財団側から他の施設へ事業についての働きかけをしているのか、または受け身で申込のあったものについてのみ対応しているのか教えて欲しい。

(大森主幹)

小学校を中心に公民館、児童センター等に環境出前講座プログラムの案内を新年度に向けて送付して案内している。

(道澤理事)

案内先から申込があれば受けるということか。

(大森主幹)

案内には申込書を同封しているので、FAX または電話で申し込みを受けている。公民館については数は多くないが、3公民館程度の要請で「紙すき」、市民とお店をエコでつなぐ PT の「環境すごろくゲーム」や「12種分別ゲーム」をしたりしている。

(道澤理事)

開催の件数は近年、どういう状況になっているか。

(大森主幹)

コロナ禍の折には申込は皆無になっていたが、少しずつ増えつつあるという状況である。出前に出向く市民研究員の人員確保に努めて、申込を希望する団体にはできるだけ応えられるように進めているところである。

(道澤理事)

拝見すると10ぐらいのメニューがあるが、ニーズ調査はしているか。こういった講座があれば実施して欲しいとの要望はどうか。環境問題は幅広いので記載したものしかやらないというのではなく、どういうものが求められているのか、調査を実施したことがあるか。

(大森主幹)

各チームが出前授業に出向いた際に、アンケートを実施している。受講者からの声として、この点はよかった、或いはこの点は難しかった等の意見を聞くことで、要望の聴取に努めている。また、今年度から元小学校の校長で環境教育に造詣の深い環境教育アドバイザーを置き、市民研究員の指導に改善の余地があると考えた場合、指導・助言に努めている。実際に出前授業に出向いて、工夫すべき点、改善点等の指導をしている。

提供内容がここ20年程、大きな変化がなく、少しずつ改善を図っているところであるが、市民研究員の定例会や代表者会でも検討している。特に SDGs啓発 PT が行っているカードゲームについては、非常に好評であり、「Get the point game」というファシリテータの資格がないとできないものについては指導者養成に努め、また大阪府が配信している「もったいないやん食品ロスカードゲーム」、「3R カードゲーム」等資格不要であるメニューが増えたので、ニーズとシーズが合致してより積極的に取り組んでいきたいと考えている。

(道澤理事)

是非とも、ニーズにあったメニューを考案し、対応していただきたい。

次に海外からの来訪者、例えば中国からの施設見学者が増えているということを以前聞いたが、最近の動向はどうか。こうした来訪者に関してプラザとして新たな対応や試みを考えていることはあるか。来

年度に考えていることはどうか。

(上川次長)

海外からの施設見学者であるが、一時コロナ前は連日小中学生の修学旅行等の訪問先として、日本の優れた廃棄物処理対応と3R を見に吹田市資源リサイクルセンターを訪れていたが、中国国内の政策も影響して、令和6年度は中国からはほんの数える程度の来館であった。

海外からの視察者への対応としては、例えば当財団の歴史を知って頂くために、三輪市民研究所長から30周年記念誌を英語に全訳し、HP に掲載してはどうかと指示を受けている。令和6年度中には完成を見ることができなかったが、令和7年度中には完成させたい。

中国の視察見学は、当財団から働きかけることが出来ず、受け身にならざるを得ないが、来館時には申込書にどういった点を視察したいかを記載してもらっているので、そのニーズにあわせて対応を図る。

(天野参事)

それ以外にも、10年前頃に施設パンフレットの英語版、中国語版、韓国語版を日本語版とともに作成してきた。事業変更等に対応するために、施設の利用状況もめまぐるしく変化しており、今後とも柔軟に変更が可能なように紙ベースは最小にとどめて、令和7年度中にはHP 上に記載したい。

(道澤理事)

今年は大阪・関西万博での海外からのインバウンド客も増加すると思われる。先にマレーシアの州知事他の使節団が来館したときのように、日本の優れた環境技術を海外に伝える役目もしっかりと担ってほしい。是非プラザが情報発信の場所になって欲しいと思う。AI も進む中、平素からの準備を怠ることなく対応してもらいたい。

吹田市では令和6年の2月議会で提案されているが、カスタマーハラスメントに係わる条令を制定しようとしている。採決はこの24日に採決されるが、市だけでなく、外郭団体についても話をさせてもらっている。カスタマーハラスメントや内部でのパワーハラスメント、セクシャルハラスメントに対する規程整備を至急に進めてもらいたい。吹田市からは他の外郭団体で作成された規程をプラザに渡すので、早急に対応をお願いします。

質問が終わり、議長が第9号議案の採決を諮ったところ満場一致をもって第9号議案は承認可決された。

(4) 報告事項

小幡範雄理事長、平田美恵子副理事長、上野浩文専務理事が定款及び理事会の決議に基づく自己の職務執行状況につき、順次自ら報告を行った。

小幡範雄理事長からは、特に大阪府からおおさか環境賞大賞(事業者活動部門)を授与されたことを報告した。授与式では大阪府の吉村知事と懇談の機会があり、万博日本館でのサーキュラーエコミー等について語り合ったことを述べた。次に大阪・関西万博でのリユース食器協働事業については ecotone、公益財団法人京都市環境保全活動推進協会(京エコロジー)との3者での事業運営をしっかりと実施すること、また、ゆめほたる、さすてな京都、京エコロジーとの環境啓発施設4館連携(場合によっては3館連携)での大阪・関西万博でのロハス出展については費用面で合意に至らず、取りやめることになったと報告した。しかし連携については、今後とも情報共有や人的交流を中心として進めていきたい旨、言及した。

次に平田美恵子副理事長からは、この第3四半期については、さまざまなイベントを実施してきたが、今後第4四半期以降は当財団の事業区分の在り方と新体制の在り方に注力して検討してきた

旨発言があった。また世間では給与水準が顕著に上昇している中、この給与水準では人員確保が本当に難しく、当財団として独自の資金調達方法を考えることが必要で、そのためにも事業の区分仕分けをしっかりと進めていきたい。今回、理事の皆様には第8号議案を採決いただいたことについて感謝の意を表した。

次に上野専務理事からは、現在昨年6月に閣議決定された環境省第5次循環型社会形成推進基本計画、及び大阪府循環型社会推進計画、吹田市第3次一般廃棄物処理基本計画と照らし合わせながら、計画の評価すべきポイントの洗い出しを行なっているところであると発言があった。

この後、議長が令和6年度第3四半期の事業実施概要及び令和6年度第3四半期までの決算の詳細について改めて事務局に説明を求めた。事業実施概要については大森亘主幹、林幸彦主査が、決算と監事監査の状況については田崎貴子主幹がそれぞれ議案書を基に順次説明した。

議長が報告事項及びその他全般について質問や意見を求めたところ、次のような質問及び意見があった。

(黒田理事)

昨年9月15日に共催事業で実施した「ハインリッヒの鴨」であるが、プラザは吹田市民の認知度はまだまだ少なく、それを補うのが情報発信の役目である。ただ事務局で全ての情報発信をするのは負担が大きすぎるため、市民研究員の情報発信を自由活発にできるように進めてもらいたい。次回の通年の決算時の事業報告には共催事業もしっかりと入れていただきたい。

(林主査)

黒田理事の発言について、現在、「身近な環境を調べよう」PTでこれまで Facebook で発信していたが、Facebook を閲覧使用している人は年齢層が高いというデータがあり、より若年層に訴求する力が高い Instagram を2か月前に開設した。それにより写真等、活動がよりビジュアルに発信でき、若年層にも受け入れられやすい状況になってきている。理事の皆様には是非フォローしていただきたい。

引続き議長が、その他報告事項4件についての説明を求めた。

まず、天野参事が大阪・関西万博のリユース食器協働運営事業について、現状を説明した。日本国際博覧会協会が公募する「EXPO フードトラックエリアにおけるリユース食器運営事業に地域環境デザイン研究所 ecotone と公益財団法人京都市環境保全活動推進協会(京エコロジー)と、三者協働で応募し選ばれたことは既に令和6年度第1回理事会で報告したところであるが、協会の対応が二転三転し、食べ物持込み禁止が持込可能になり、キッチンカーではリユース食器の使用のみというのが、紙容器も使用可能となるなど、腰を据えた対応に苦慮しているところである。ただ洗浄作業(カトラリー)を効率化するために、ecotone が自らの費用で食器洗浄機を設置し、試運転も始めるところであり、開催後に備えてしっかりと対応していきたいと述べた。

次に玉江主査から、施設センスアップ(A棟4階スペース)の進捗状況の説明があった。前回の第三者モニタリングで委員から、館内の統一感がない、展示が古いなどの指摘があり、これに対応するため、吹田市環境部環境政策室と当財団で協議を進め、まず来館者の玄関口ともいえる施

設A棟4階ホールのセンスアップに取り組むことになった。当財団からは上野専務理事の監修の元、玉江、脇、山川の三人が対応している。このプロジェクトのコンセプトは「はじまりに・つながる・とびら」とし、名称も toto-nou(トノウ)プロジェクトと名付け来館者の行動変容につながる仕掛けづくりやインフォメーション機能を充実させていく。令和7年6月を目標にまずイメージパースとしてまとめる予定であると述べた。

続いて上野専務から第2次中期計画の中間見直しとして、さらに先を見据えた第3次中期計画への構想の一端を示した。特に行動を促す段階的支援策作りの強化、また toto-nou プロジェクトにも繋がる館内サインの充実、行動を促す中核人材の育成の視点とリサイクル回収拠点に着眼した見直しを検討し、地域の役に立つ行動を起こすことを予定しているとの考えを示した。

次に令和6年度おおさか環境賞大賞(事業者活動部門)受賞については、小幡理事長が先に説明したとおり、30有余年に亘る当財団の市民研究員の活動は全国に例をみないものであり、その地道な活動が評価されたものと考えていると述べた。

最後に上川次長が、当財団と大阪学院大学・大阪学院大学短期大学部との連携協力に関する基本協定が締結されたことを報告した。今回は当財団の三輪信哉市民研究所長が同大学国際学部で教鞭をとっていることもあり、いろいろな交流を目指していきたいと述べた。また主担研究員はそれぞれ大学との深いつながりがあるため、今後ますます多くの大学と同種の提携を結びたいと考えている旨、説明した。

その他の報告が終了し、議長がその他報告事項及び全般について質問や意見を求めたところ、次のような質問及び意見があった。

(道澤理事)

大阪・関西万博のリユース食器協働運営事業については、後々問題が発生しないように、3者の間での業務分担を明確にしておくことが必要と考える。この点、業務量や分担の明確がなされているのか確認したい。これが不明なままではプラザの業務体制にも多大な影響を及ぼすと懸念する。これまでの協議経過はどうか。

(上川次長)

先に触れたように、日本国際博覧会協会の方針がくると変わる状況下ではあるが、新食器洗浄機は既に設置を済ませており、洗浄作業の分担は ecotone が責任を負うことになっている。今回リユース食器の中でも、当施設にはスプーンやフォークなどのカトラリーをメインに受け入れることになっている。ただ現時点で実際にどの程度の洗浄量となるのかは、協会の方針の影響でどうなるかは正直予想しがたいところである。流動的な中ではあるが、ecotone も洗浄機には資金をつぎ込んで投資をしている以上、しっかりと回収できるよう採算ベースに載せる方策を実行していくことになる。これまで説明してきたとおり、プラザはあくまで場所の提供および洗浄以外での協力に留まるという点は変わらない。

(道澤理事)

万博協会でも走りながら調整して実施をするという形になっているとマスコミでも流されており、実態はそうではないかと思っていたが、業務分担はしっかりと線引きして、可能であれば解釈の相違がないように文書で取り交わしておいた方がよいと考える。

第3次中期計画については、また別の機会にしっかりと説明を聞かせてもらいたい。

おおさか環境賞大賞の受賞については、非常に喜ばしいこととお祝いしたい。この成果を財団のHPやSNS、Instagramで情報発信しているか。

(上川次長)

担当者には掲載する旨、指示をしている。

(道澤理事)

大阪学院大学・大阪学院大学短期大学部との連携協定についても、しっかりと情報発信してもらいたい。

この後、勤務先での人事異動により、令和7年度定時評議員会をもって理事を辞任することになった東真吾理事のこれまでの当財団に対するご指導・ご協力に対して、小幡理事長からお礼の言葉を申し述べた後、東真吾理事ご本人から挨拶があった。

以上をもって議案の審議等を終了したので、議長は役員各位に対し円滑な会議運営の協力に感謝し、午後0時30分に閉会を宣した。

この議事録が正確であることを証するため、定款第39条第2項の規定により、理事長及び監事は記名押印する。

令和7年3月21日

理事長 小幡 範 雄



監 事 堀 江 篤 史



監 事 原 田 憲

